

平成20～27年度とちぎの元気な森づくり県民税事業の検証・評価

とちぎの元気な森づくり県民税事業評価委員会（委員長：児玉博昭、他委員11名）により、これまでに実施した税事業のうち主な取組についてその役割・効果の検証・評価が行われた。

1 評価結果

とちぎの元気な森づくり県民税事業の所期の目的は概ね達成されていると認められるものの、なお対策が必要とされる課題も残されている。

【今後の課題等】

- ・ 奥山林及び里山林の継続的な維持管理
- ・ 獣害対策の強化
- ・ 県民の森林整備や木材利用への理解促進

2 検証・評価の詳細

評価対象	計画	実績	事業費 (千円)	検証内容	事業の成果等	今後の課題等
①奥山林間伐	30,900ha	24,588ha 【内訳】 (奥山林分) 19,972ha (再生間伐分)※ 4,616ha	3,622,090	○H20～27年度評価実施箇所 (年度毎5箇所)を現地確認 ・ 下層植生の生育状況 ・ 森林の生育状況 ・ 伐捨間伐材の状況	・ これまでに全体計画30,900haのうち約8割を整備した。 ・ 間伐の実施により、森林を健全な状態にすることで林地が保全され、森林の水源涵養等の公益的機能の維持を図ることができた。	・ 事業を導入した森林は、継続して健全な状態に維持する必要がある。 ・ 伐採木の有効活用等、森林資源の循環利用を進めていくことが課題である。
②奥山林獣害対策		1,772ha	578,638	○H21～27年度評価実施箇所 (年度毎5箇所)を現地確認 ・ 森林の被害状況	・ 獣害対策の実施により、被害の拡大を防止することで、森林の水源涵養等の公益的機能の維持を図ることができた。 ・ 獣害対策を1,772ha実施したことにより、約68億円相当の被害を防止することができた。	・ 獣害は県北西部を中心に分布し、増加傾向にある。 ・ 獣類の生息数は増加しており、生息区域も拡大傾向にあることから、獣害の発生地域の拡大が懸念されるため、獣害対策の強化が必要である。

評価対象	計画	実績	事業費 (千円)	検証内容	事業の成果等	今後の課題等
③里山林整備	4,380ha	3,731ha	1,695,164	○H20～27年度評価実施箇所 (年度毎6箇所程度)を現地確認 ・林内の状況 ・整備後の管理状況 ○毎年度評価報告書で実施しているアンケート分析	・整備により見通しが良くなり、里山林が持つ価値(景観、文化、生物多様性等)を活かした取組が行われるようになったほか、児童生徒たちの通学の安全・安心を確保することができたり、野生獣による農作物被害の軽減が図られた。関係者に対するこれまでのアンケートの結果では、概ね7割以上が事業によって効果があったと評価している。	・交付金対象期間(5年)終了後、維持管理が行われていない箇所があり、今後の継続的な維持管理が課題である。
④学習用机・椅子整備 ○元気な森を育む木の良さ普及啓発事業	(木製学習用机・椅子配布数) 18,000セット 14,600セット (木製ベンチ配布数) 2,000基 2,000基		425,190	○県内の小中学校の整備率 ○毎年度評価報告書で実施しているアンケート分析	・県内の約4割の小中学校に、学習用机・椅子を14,600セット配布し、森林整備の必要性の理解促進が図られた。 ・県民が直接利用する機会の多い市町の公共施設等に木製ベンチを2,000基配布することで、県民税等の普及啓発活動に広がりを持たせることができた。	・木材を利用することが、健全な森林の維持につながっていくことについて、引き続き県民の理解促進に取り組む必要がある。
⑤県民の森づくりへの関心・理解 ○とちぎ森づくり情報センター事業 ○とちぎの元気な森づくり県民広報事業 ○とちぎの元気な森づくり県民税事業評価委員会事業			155,046 51,852 4,858	○「とちぎの森づくり」ホームページ登録者数等の推移 ○体験活動への参加 ○毎年度評価報告書で実施しているアンケート分析 ○県政世論調査結果の分析等	・とちぎの森づくりホームページやとちぎ「森の楽校」などの体験講座により、県民の森づくり活動等への参加が促進された。 ・広報事業において、とちぎの元気な森づくり県民税の趣旨や事業内容等の県民理解の促進に寄与した。 ・税事業については毎年度、県民税事業評価委員会事業によって事業の執行状況や効果等について評価を受けており、翌年度以降の事業に反映させることで、より効果的な税事業の実施を担保してきた。	・税事業は、県民の協力により実施していくものであるから、事業内容や効果等について、引き続き県民への周知に努めていく必要がある。

※県民税を財源として実施していないが、計画に対する実績として含まれている間伐